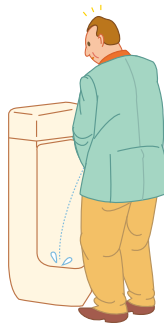




カナグル錠・OD錠を 服用される方へ



**カナグル錠・OD錠は、2型糖尿病もしくは2型糖尿病を合併する慢性腎臓病[※]のお薬です。
副作用をできるだけ少なくするためには、医師・薬剤師の指示を守って服薬し、
また患者さん自身が注意する点をよく知っておくことが大切です。
この冊子をよく読み、上手に治療を続けていきましょう。**

※ただし、末期腎不全又は透析施行中の患者を除く。

総監修 稲垣暢也 先生

公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院 理事長

監修 棚橋紀夫 先生

埼玉医科大学国際医療センター 脳神経内科・脳卒中内科 特任教授

三嶋廣繁 先生

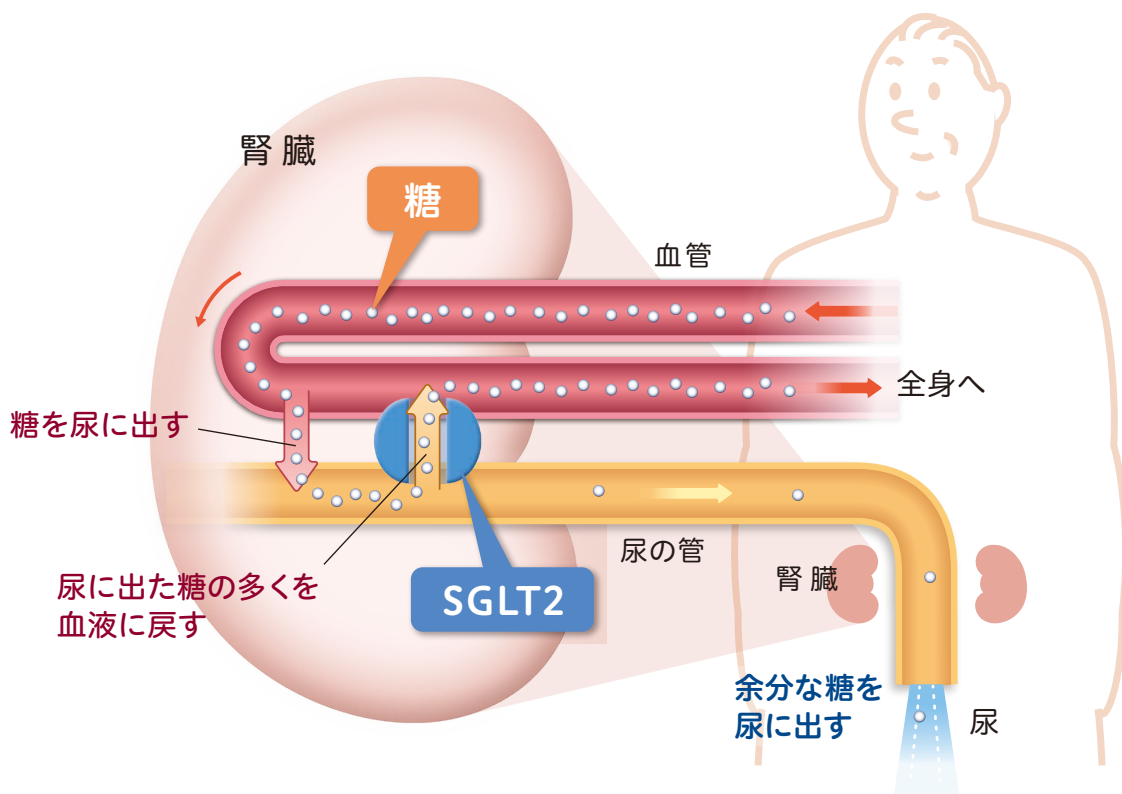
愛知医科大学医学部 臨床感染症学講座 教授

糖尿病の人では、 SGLT2の働きが高まっています

エス・ジー・エル・ティー・ツー

健康な人では、血液中の糖が老廃物とともに腎臓から尿の管（尿細管）へ出ますが、糖のほとんどは体内に戻されます。ここには、おもにSGLT2というたんぱく質が関係しています。糖尿病の人では、このSGLT2の働きが高まっており、血糖値が高いにもかかわらず、尿細管へ糖がたくさん出ても、このSGLT2によって体内に戻されてしまうため、血糖値が下がりにくくなっています。

● 血液中の糖分（血糖）の尿への排せつ

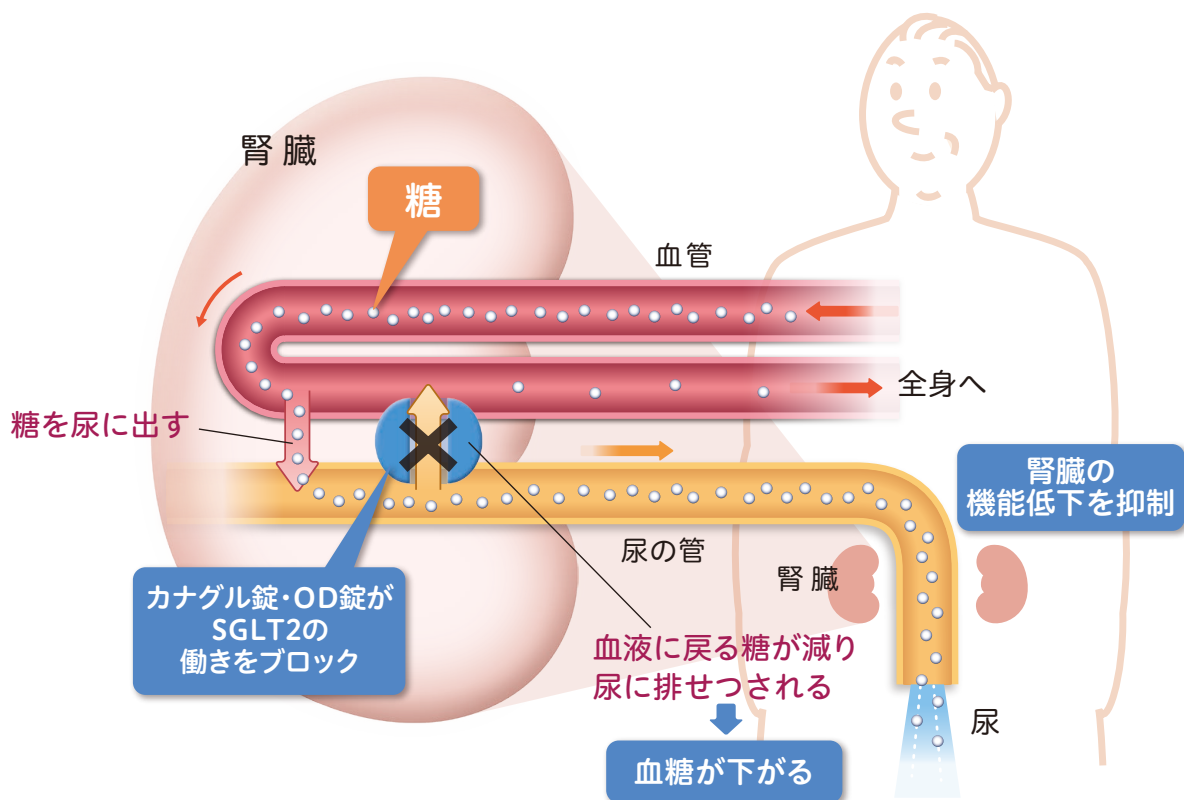


カナグル錠・OD錠は、糖を尿に排せつするお薬です

カナグル錠・OD錠は、腎臓にあるSGLT2の働きを抑えて、尿に糖が排せつされやすくし、血糖値を下げるお薬です。また、血液をろ過する糸球体内の圧力を下げるなど、その他さまざまな作用によって、腎臓の機能低下を抑制します。カナグル錠・OD錠は「SGLT2阻害薬」とよばれます。



● カナグル錠・OD錠が糖を尿に排せつするしくみ



カナグル錠・OD錠は、 1日1回、朝食前または 朝食後に服用してください



● 飲み忘れたときは…

飲み忘れに気づいた場合、その日は飲まずに、翌日の朝に「1回分」を飲んでください。

(注) 絶対に2回分を一度に飲まないでください。



● 誤って、指示より多く 飲んでしまったときは…

- 低血糖(6～9頁参照)に注意してください。
- すみやかに、医師、薬剤師に相談の上、その指示にしたがって適切に対処してください。



食事療法・運動療法を続けましょう

糖尿病治療の基本は食事療法と運動療法です。
カナグル錠・OD錠を服用していても、これら続けることが必要です。

食事療法



運動療法



糖尿病の治療



薬物療法

食事療法・運動療法は、
医師の指導にしたがって行いましょう。
なお、糖質制限食（低炭水化物食）を
行っている方は、医師に相談しましょう。





注意していただくこと

① 低血糖

カナグル錠・OD錠を服用中に低血糖症状が起きることがあります。

特に、インスリン注射や他の血糖降下薬と併用するときは注意してください。

低血糖症状とは

- 血液中の糖が少なくなりすぎた状態です。
- 動悸や発汗、手足のふるえ、眠気などの症状があらわれます。
- 低血糖を放っておくと、意識を失うこともあります。

動悸



発汗



手足の
ふるえ



眠気



意識を失う



低血糖症状の進行

血糖値*

(目安)

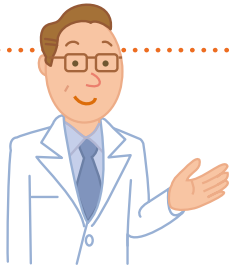
70 mg/dL

50 mg/dL

- 発汗
- 不安
- 動悸(どうき)
- 脈が速くなる
- 手足がふるえる
- 顔が青白い
- 頭痛
- 目のかすみ
- 空腹感
- 眠気
- ぼんやりする
- 意識を失う
- けいれん
- 昏睡状態になる



※患者さんによって発現する血糖値は異なります



注意していただくこと

① 低血糖

低血糖症状があらわれたとき

- 絶対にごまんせず、
すぐに糖分をとってください。



- 常に糖分のとれるものや「糖尿病患者用IDカード」を
持ち歩くようにしましょう。



- 周りの方にも低血糖症状について
知らせておきましょう。



糖分のとれるもの

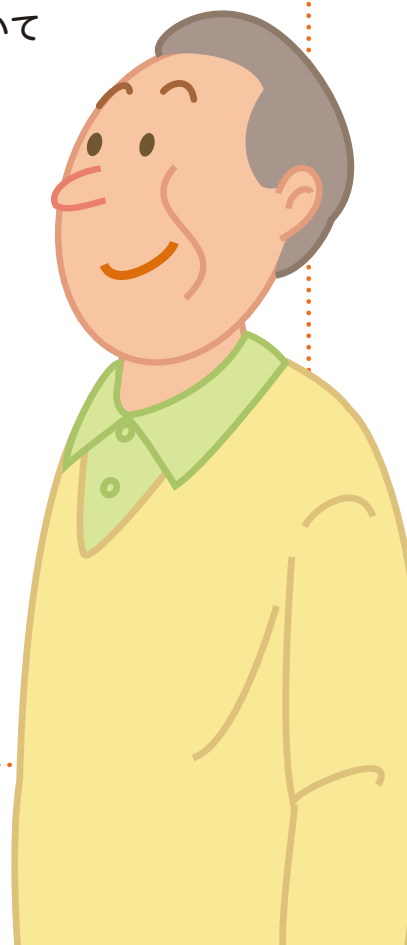
- ブドウ糖(グルコース) ● あめ※ ● ジュース※や清涼飲料水※
- 角砂糖 ※シュガーレスでは効果がないため、シュガーレスの
食品や飲料ではないことをご確認ください

α -グルコシダーゼ阻害薬(アカルボース、ボグリボース、ミグリトールなど)を
一緒に服用しているときに低血糖症状があらわれた場合は、
砂糖(ショ糖)ではなく、ブドウ糖(グルコース)をとってください。



低血糖症状を起こさないために

- 糖尿病のお薬の飲み方は、医師の指示を必ず守ってください。
- 食事療法・運動療法は指示された方法を守りましょう。食事が遅れたり、食事量が少ないときや、運動量が多くなった場合に、低血糖を起こしやすくなります。
- 風邪などで発熱、下痢、嘔吐、食欲不振などがあるときは、血糖のコントロールが悪くなることがあります。できるだけいつも通りの食事をとり、水分も十分にとりましょう。食事がとれないときや嘔吐するときは、医師に連絡して服薬について指示を受けてください。
- お薬を新たに使用する場合は、医師または薬剤師に相談してください。





注意していただくこと

② 脱水症状

以下のような症状が出たときは脱水かもしれません。
水分補給をして、早めに医師に相談してください。
特に、夏場は注意してください。
血圧を下げるお薬を飲んでいる場合は、
血圧が下がりすぎることもあるので、注意してください。

脱水症状とは



のどが渴く



めまい、
ふらつき
たちくらみ



眠気、疲れを
感じる、
ぼんやりする



脈拍が
いつもより
速く感じる

- トイレに行く回数が増えたり(頻尿)、
1回に出る尿の量が増えたり(多尿)しているときは
脱水を起こしやすいので注意が必要です。

以下のような方は脱水になりやすいと考えられますので、特にご注意ください。

65歳以上

減塩食療法を行っている

血圧を下げるお薬
(特に利尿剤)を飲んでいる

腎臓の働きが低下している

血糖コントロールが極めて不良である

「シックデイ」は、カナグル錠・OD錠の服用をやめましょう。

発熱・下痢・嘔吐などがあるときや、食欲不振のために食事ができないときを「シックデイ」といいます。

シックデイは脱水になりやすいので、

その日はカナグル錠・OD錠の服用をやめ、医師に相談しましょう。

脱水が起こらないように、
ふだんよりも水分を多めに摂取しましょう。
夏場は特に気をつけましょう。
尿の回数や量が多いと水分を
控えがちですが、そのようなときも
水分摂取を続けましょう。





注意していただくこと

3

尿路系や性器の感染症

尿路感染や性器感染を起こすことがあります。

尿路感染や性器感染が重症になると腎盂腎炎や敗血症などになる場合があります。

また、尿路感染・性器感染が重症になると病変が肛門・外性器周囲の皮膚軟部組織に広がり、さらに重症化することがあります。

以下のような症状が出たときは、恥ずかしがらずにすみやかに医師に相談してください。

また、このような症状が既にある方、または経験したことがある方は、医師にそのことを伝えてください。

尿路感染症 (男女とも)

- 排尿時の痛み
- 残尿感
- 発熱、寒気
- 背中やわき腹の痛み など

性器感染症 (女性)

- 性器およびその周辺のかゆみ
- 白いおりもの(粥状・ヨーグルト状・酒粕状) など

性器感染症 (男性)

- 性器の赤み、かゆみ、腫れ、湿疹
- 性器からの悪臭のある排せつ物
- 性器周囲の皮膚の痛み など

フルニエ壊疽[※] (男女とも)

- 陰部の痛み、痛みを伴う水ぶくれ、ただれ
- 陰部の皮膚が赤～赤紫色に腫れる
- 発熱、体がだるい など

※フルニエ壊疽:皮下組織の細菌感染で、筋膜にまで急速に広がって組織を破壊し、生命を脅かすことがある疾患です。特に陰部に患った場合「フルニエ壊疽」とよべます。

尿路感染から、腎盂腎炎や
敗血症になる場合があります。
尿意を感じたら、排尿を
がまんしないようにしましょう。
毎日入浴する、通気性のよい下着を着るなど、
性器を清潔にすることを心がけましょう。
女性はビデを使いすぎないようにしましょう。





注意していただくこと

4 ケトアシドーシス

カナグル錠・OD錠は糖を尿に排せつされやすくするため、からだの脂肪が分解されやすくなり、その結果、尿や血液中のケトン体が増えることがあります。

血液中のケトン体が増え、血液が酸性に傾くことをケトアシドーシスと言います。

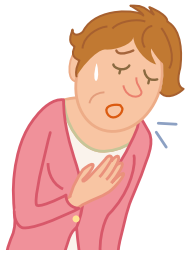
以下のような症状が出たときは、ケトアシドーシスかもしれません。

水分を補給して、すみやかに医師に相談してください。

※高血糖がみられない場合があるので、血糖値だけで判断せず、ケトアシドーシスの症状を感じたらすぐに医師に相談してください。

※この薬を中止した後であっても、長期間糖を尿に排せつする作用やケトアシドーシスが持続する場合があります。ケトアシドーシスの症状を感じたらすぐに医師に相談してください。

ケトアシドーシスの症状



吐き気・嘔吐



食欲がない



腹痛



過度に
のどが渇く



からだ
がだるい

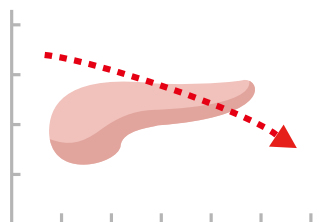


息苦しい

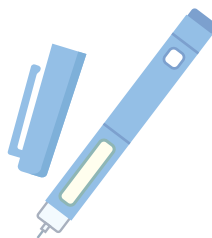


意識の低下

以下のような方はケトアシドーシスになりやすいと考えられますので、特にご注意ください。



インスリン分泌能が低下している



インスリン製剤を減量あるいは中止した



過度な糖質摂取制限や食事摂取不良



感染症や脱水を起こしている

ケトアシドーシスを防ぐために、過度の糖質摂取制限はやめましょう。また、シックデイ(11頁参照)等、食事がとれない場合や感染症、脱水を起こしている場合は、その日はカナグル錠・OD錠の服用をやめ、医師に相談しましょう。

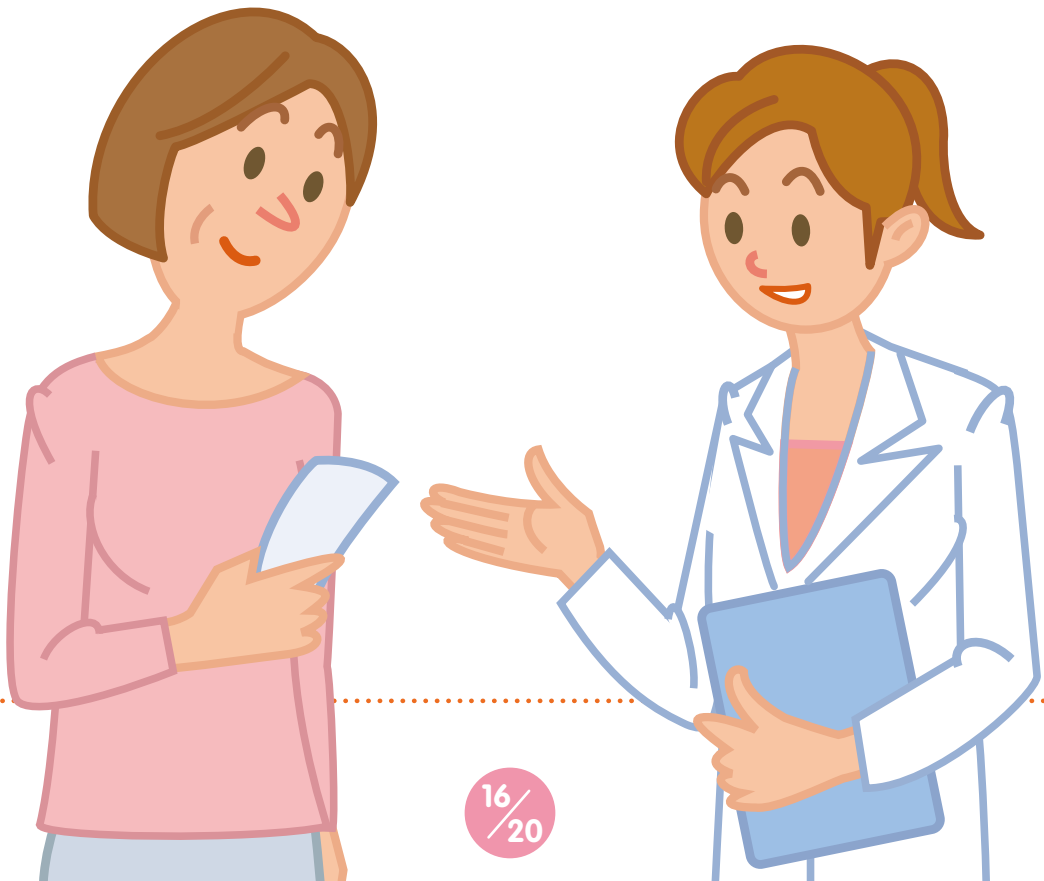




その他の注意

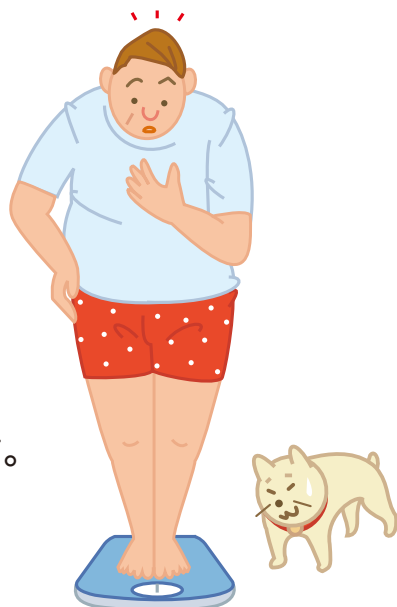
●尿糖または1,5-AGの検査

カナグル錠・OD錠を服用している間は、血糖が良好にコントロールされていても、尿糖検査は「陽性」になります。また、1,5-AGの検査では「低値」になります。これらは、このお薬の効果があらわれている証拠です。したがって、このお薬を飲んでいる間は、尿糖検査や1,5-AGは血糖の状態の目安にはなりません。「尿糖が陽性」などと言われたときは、「尿に糖を出す薬を飲んでます」と伝えてください。



●体重

カナグル錠・OD錠は糖を尿に排せつするため、体重が減ることがあります。個人差はありますが、通常は、このお薬を飲み始めてから3カ月間で2kg前後の体重減少があります。過度に体重が減ったときなど、心配なときは、医師に相談してください。



●皮膚のかゆみ、発疹

カナグル錠・OD錠を飲み始めてから、皮膚がかゆくなったり、発疹ができたときは、糖尿病の治療を受けている医療機関に相談してください。

上に記載されていないことでも、検査値や体調の変化などで心配なことがあったときには、医師に相談してください。



メ モ

以下の方は、カナグル錠・OD錠を服用することができません。
いずれかにあてはまる方は、お薬を使い始める前に
医師または薬剤師に相談してください。

- 過去にカナグル錠・OD錠に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある方
- 重いケトーシス状態（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸）の方、ペットボトル症候群の方、糖尿病性の昏睡状態の方、糖尿病性の昏睡状態になりそうな方
- 重い感染症にかかっている方、最近手術をした方、または手術の予定がある方、大きな怪我をしている方



病・医院名